令和8年度全国学力・学習状況調査本校結果の概要

行方市立麻生東小学校

令和8年4月に小学校第6学年を対象に実施された「令和8年度全国学力・学習状況調査」の結果について、本校の概要をお知らせします。

1 調査の目的

(1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
(2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
(3) このような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 結果の概要

【国語】

・「知識及び技能」

基礎的な漢字の定着度や、言葉の特徴・使い方の理解に課題が見られます。読み書きだけでなく文脈の中で漢字や言葉を適切に活用する学習を継続的に取り入れ、基礎的な知識・技能の定着を図ります。

・「話すこと・聞くこと」

資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫する力が概ね定着していると捉えます。相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の構成を理論的に考える力は課題が見られます。発表や話合い活動において、 相手の意図を意識して聞き合う活動の時間を設定し、理由や事例を基に筋道を立てて話す学習の充実を図ります。

・「書くこと」

筋道の通った文章となるように、文章全体の構成を把握する力に課題が見られます。作文指導やノート作りにおいて、「はじめ・なか・おわり」などの構成メモを作る習慣を徹底し、文章全体の構成を意識して書く時間を確保し、筋道を立てて表現する活動を位置付けます。

・「読むこと」

文章を読んで自分の経験と結び付けて自分の考えをまとめる力が概ね定着していると捉えます。目的に応じて、必要な情報を見付ける力は課題が見られました。単元の導入で「何を読み取るべきか」という目的を明確にする学習計画を作成し、文章から必要な情報を見つけ出す活動を充実させます。

【算数】

・「数と計算」

数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、数の大きさについて考察する力が概ね定着していると捉えます。また、示された情報を基に、数量の関係に着目し、自分の言葉で数について説明する力が育っています。問題場面から、規準量、比較量、割合の関係を捉える力には課題が見られます。数量関係を言葉や図、数直線、表等を用いて可視化し、説明し合う活動を充実させ、数量のつながりを捉えて問題を解決する学習を重点的に行います。

・「図形」

基本的な図形の体積の求め方についてはよく理解できていると捉えます。複雑な条件の中で図形の特徴を捉えて記述する力は課題が見られます。箱などの具体物を触ったり動かしたりする活動を取り入れ、図形を構成する要素（面や辺）を視覚的に捉える時間を設定し、条件に合わせて図形の特徴を論理的に説明する活動を充実させます。

・「測定」

長さや体積などの「量の大きさ」に関する基本的な概念は、概ね定着していると捉えます。

・「変化と関係」

割合の概念の理解に課題がみられます。関係図や線分図をかかせる指導を徹底し、数量のつながりを目で見える形に整理する活動を授業に位置付けます。

・「データの活用」

グラフの特徴を捉える力は概ね定着していると捉えます。二次元の表から、条件に合う数を読み取る力に課題があります。求める条件の「列」と「行」を指でなぞって交点を確かめる学習活動を取り入れ、複雑な表から目的の数値を正しく読み取る活動を行います。

【質問紙】

・「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答が多く、自己肯定感や将来への希望が高く育っていると捉えます。

・国語や算数の学習を好む児童の割合が低く、特に国語への苦手意識が課題となっています。日々の授業で児童の成長を具体的に褒めて「分かった」「できた」と実感できる振り返りを充実させ、成功体験を積ませることで、各教科の学習に対する関心・意欲を高めて自己効力感の向上を図ります。